

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム彩葉
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市棚方町424 - 272
記入者名 (管理者)	中尾 久美子
記入日	平成 20 年 7 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>家庭的で地域と密着した中でのサービス提供と、運営理念に基づいた利用者お一人お一人にあった地域生活の継続支援を行っている。</p> <p>今以上に外出等の機会を増やし、地域に密着した支援を行いたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>運営推進会議の開催、ホーム外への掲示板設置、ご家族へのホーム便りなどで、当事業所の様子などを公表し、交流の場の提供、協力を仰ぐ等し、地域やご家族様の理解を得られるよう、取り組みを行っている。</p> <p>今後も、地域やご家族との交流の機会を増やし利用者にも地域での生活を実感していただく場面を提供する。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>近所の散歩や買い物等の外出で、気軽に挨拶や会話を交わしている。また、地域の行事やホームでの行事等でお互いに参加しあい、交流の場を作っている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域の一員として、町内掃除、夏祭りの参加、12月の町内夜回りなど、その時々で連絡頂き、地域の活動に参加し交流に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで地域の町内会長や民生委員などに参加頂き、町内会などで議題に取り上げ、地域の方の相談にも対応できる取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、外部評価の結果に基づき、改善または、サービスの質の向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、議題を基に話し合い、当所や参加者からの要望や質問、または情報交換などを行い、サービス向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用状況報告や相談などを行い連携を保ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も、様々な形で市との連携を保ち、市町村とともにサービスの質の向上を目指し取り組みを行いたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今現在利用されている方はいないが、必要に応じて相談や話し合いを行い、活用できるよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長や管理者の指導の基、職員一人一人が注意を払い、虐待の無い支援を行っている。また、家族や利用者の意見、要望などを聴き、利用者主体の支援を提供できるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時には管理者が家族と利用者に行き、また、家族や利用者からの質問や疑問、または要望などを説明の中で伺い理解、納得を図っている。また、入所まもなくも十分な話の傾聴などを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の要望や意見などには職員一同で把握に努め、日々のサービスや生活に反映できるよう取り組んでいる。また、利用者からの不満や苦情を自由に申し出が出来るような環境を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のホーム便りや面会時等で、利用者の日々の生活状況や体調などを報告している。また、金銭管理においては、ご家族や利用者のご意向の基、管理を行い、随時、または月に一度は必ず金銭出納長を郵送している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの意見や苦情などはいつでも申し出が出来るような機会を設け、職員会議などで講評し、改善に努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度の全体の職員会議、二ヶ月に一度の運営推進会議などで意見交換、情報提供などを行い反映するよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時々利用者やご家族の状況変化に伴うための話し合いや、職員の勤務変更などでの職員確保に努めている。また、その都度、施設長に報告を行う。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職務上の勤務交代は極たまにあるが、移動や離職については最小限に抑え(ここ一年無し)利用者の不安や困惑の状態を防ぐ支援を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や協議会等に管理者だけでなく、職員もその時々で参加し、施設報告することで、個々の介護力向上に努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が研修や協議会に参加することで、情報や意見交換などを行い、同業者とのネットワークづくりやサービスの質の向上を共に目指し取り組みを行っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な娯楽(スポーツ大会や親睦会など)を行っている。また、常時、職員間あるいは利用者間とのトラブルなどに反応し、愚痴や家κなどを聞ける体制を整えている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績を認め、尚いっそう向上心を養える環境づくりを行い、資格取得に向けた支援を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には面接を行い、ご家族や利用者の不安や要望なども尋ね、受けとめる努力を行っている。また、入所されてからも、ゆっくりと話を傾聴する機会を確保、より良いサービス提供が出来るように努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面接や電話などの対応で、ご家族の不安や要望などを聴き、入所に当たっての準備を行う、または受け止める事に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間での連携を図りながら、個々の意思などを重んじたサービス提供を行えるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その時に応じたショートステイや見学などからのサービス利用の声掛け、または利用者やご家族が安心できる場の雰囲気作りを行っている。その他、利用者主体のサービス提供やご家族への相談や協力を得ながらの支援に努める。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中から、利用者から学び、励まされることもあり、職員も喜怒哀楽を共にし、気持ちに寄り添う支援に取り組んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、ご家族の意見や要望などを聴いたりして、情報の共有を行い、一緒に利用者を支援する関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者のご家族への気持ちを受け止め、ご本人、ご家族の希望に添った支援に努めている。また、ご家族とゆっくり過ごせる時間の提供にも努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者個々の要望をお聴きし、馴染みの店などを利用できる支援を行っている。また、近隣に外出(散歩など)するなどで地域とも交流できるような支援に努めている。		地域の方や知人の方など、もっと気軽に出入りできるような環境にしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係把握を職員一同で取り組み、利用者間で起きた問題解決に努めている。また、共同作業の提供、楽しく過ごせる時間や環境づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後でも気軽に立ち寄っていただけるような働きかけを行っている。また、ご家族からの相談などにも応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や言葉、行動に注意を払い、要望や意向を把握することに努め、共有したサービス提供を行っている。また、困難な場合にはご家族にも協力を頂き、本人本位に検討を行う。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族からの直接的な言葉での情報を得ることで、職員も一同で把握しながら個々でコミュニケーションを図る。また、日々の生活の中で取り入れ、本人主体のサービス提供を行う支援に努める。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともにその日の心身の状態や変化を把握し、共有し、その人がその人らしい生活を送れるよう支援している。また、初めて挑戦することなどの支援も行う。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員、ご家族、医師などの意見を取り入れ連携図り、本人の生活が寄りよくなる為の工夫と介護計画を作成している。また、本人のご意向などにも目を向け、様々なサービス提供に努める。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その時々状態に合わせて、職員間での話し合いやご家族への連絡を行い、介護計画の見直しを行う。また、必要に応じて医師にも状況報告を行い、新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や身体状況、職員の対応などを個別ファイルに記録し、職員間の情報共有を行い、介護計画に活かすように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域行事への参加、主治医以外の専門医への受診、ホーム開放での当所への理解など、本人やご家族の要望に応じた支援、地域との関わりを活かした試みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域やボランティアの参加を呼びかけたり、また、民生委員や町内会長と意見交換を行い協力を得ながら、利用者が地域の中で安心して暮らせるように支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他施設と連携し、利用者と職員が一緒に他施設に訪問するなど、交流の場を作るように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が参加され、情報交換や協力関係を築いている。また、必要に応じての相談なども行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の希望されるかかりつけ医の継続受診を支援し、状況に応じて往診もあり、必要時には他医療機関の受診も出来るよう連携に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師は認知症に詳しく、受診の際には、一人ひとりの対応、または、職員の相談にも指示や助言を頂き支援を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医や看護職員に個々介護記録や状態観察の情報提供や相談を行い、医療活用の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関やご家族と情報を共有し、退院後も医師の指示の下、本人が安心してホームでの生活が出来るよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階でご家族や出来れば本人に意向の確認を行い、終末期に対する環境を整える。また、終末期に関する指針を確定し、主治医、医療機関との連絡を密にし、方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃から、ご家族の意向を確認し、急変時の対応などについてもご家族や主治医と十分に話し合いを行い対応を行っている。また、職員の意識作りや知識を身につけるなどし、利用者が寄り良い終末期を過ごせる支援を行う。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活支援内容(ケアプランやアセスメント)や既往歴等の情報提供または、連携を十分に行い、他事業所などでも安心して生活していただけるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員間で気づきがある場合、ミーティング時にプライバシー確保の意識付けを行っている。また、日々の支援の中での言葉使いや行動にも十分に注意し対応を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の思いや要望に耳を傾け、利用者の希望に沿った生活が出来るよう支援を行う。また、利用者の状態などに合わせた声掛けを行い、些細なことで本人が決める場面を作れる支援を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調や状態に配慮しながら、本人の要望に沿った生活が出来るよう支援を行っている。また、利用者の思いを尊重しながら、買い物や散歩などの対応を行っている。</p>	<p>今以上に利用者のペースに合わせた利用者主体の支援を行っていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理・美容院は本人の希望にて行きつけの店を利用されている。また、買い物時に好みの衣類を選び購入、気分に応じて自らお化粧をされるときの見守りなど個々の個性に応じた身だしなみの支援を行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と共にホームで収穫した野菜を食事の中に取り入れたり、調理、盛り付け、配膳なども利用者のペースにも配慮し、一緒に楽しく行えるような環境づくりを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者の好みも配慮しつつも、塩分、砂糖の取り方にも注意し、おやつなどを楽しむ支援を行っている。また、おやつを利用者と一緒に手作りするなど、作る楽しみの支援も行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>介助の必要な方にはその方に合わせてプライバシーをそわなない対応を行っている。また、排泄パターンなどを把握、記録し、必要に応じた排泄の声掛けや誘導を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日の体調確認を行いながら、利用者本人の状態や希望にあわせ介助や見守りを行い、入浴を安全に楽しめる支援に努めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、職員が声を掛け、一緒に活動できるよう心掛け、夜間眠れない場合には職員が話しをしたり、落ち着けるよう工夫をしている。また、利用者の生活の中で、病状などの状態や睡眠不足などを考慮して、その時々にあわせ休息をとるなどの工夫もしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの趣味や楽しみを引き出し、個々のペースに合わせて支援を行っている。また、利用者の要望にあわせて利用者自らが役割を持って、生活できるよう努めている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族より金銭を預かり責任を持って管理を行っている。また、買い物時などには利用者の希望に応じて、自ら支払いを行える支援を行い、必要に応じて支払いの代行(本人の預かり金より)を行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の体調などにも考慮し、散歩や買い物等の外出が出来るように支援している。また、利用者の希望に応じた外出にも対応し、全員でのドライブなども時々行い、気分転換を図れるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節ごとの行楽で戸外へドライブをしたり、利用者の希望にて計画を立て出掛けるなどの機会を作っている。また、ご家族の協力を仰ぎ、計画を立てることもある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、いつでも電話や手紙を出せるよう支援している。また、会話の中で職員の方から声掛けを行ったりもする。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はいつでも気軽に訪問できるよう特に設定しておらず、ご家族や知人の面会の際には、プライバシーにも注意し、利用者の居室にてゆっくり楽しく過ごしていただけるよう、家庭的な雰囲気になるよう工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の意識を高め身体拘束は行わず、安全で安心できるケアが行えるよう努めている。また、入所時等にご家族にもその旨を説明している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者個々の居室には鍵が無く施錠はしないが、玄関においては、玄関先の危険性(坂道の急カーブ、車が良く通るなど)が伴い、殆ど施錠していることが多い。しかし、利用者の希望に応じ外に出る際は、いつでも職員が対応を行い、自由に安全に出られる支援行っている		町内などにも呼びかけ当所前を車で走行する際は、徐行をお願いしているが、まだまだ危険を伴うことが多い。今後、時間を決めたり、職員の意識を高めるなどして、1日数時間からの施錠なしを実施していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で過ごされている利用者には、時々声を掛けるなどして見守りを行い、フロアには必ず職員が一人でもいるようにして安全に配慮する。また夜間、就寝時にもフロアにて見守りを行い、巡回時には、眠りを妨げない、または、本人のプライバシーにも配慮しながら支援を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の状態や認識に応じて、物品の提供、または所定の位置での保管を行い、安全を第一に考えている。また、使用される場合は必ず職員立会いの下行っていただく支援も行う。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な避難訓練の実施、転倒、窒息などの事故を防ぐための勉強会を行い職員の意識を高めるなど、職員全体で事故防止に取り組んでいる。また、誤薬に関しては、薬の説明書を職員全員が目を通し、随時確認を行い提供を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時や緊急時などの対応について、日頃より職員間で話し合い、敏速に対応できるように行っている。また、管理者や必要に応じて医師に連絡を行い、指示を仰ぎ対応している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方々にも橋梁を得て、避難、消火を含めた消防訓練を行っている。また、当所でも度々救出訓練を行ったり設備などの点検を行っている。火災の拡大防止については、今春スプリンクラーと自動火災通報装置が設置されている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々への起こり得るリスクを、職員全員で把握し、その時々でご家族に報告、相談を行い、また必要に応じて医師へも助言をいただき、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員で利用者一人ひとりの身体状況を把握し、毎日のバイタルチェックや体調変化に留意し、異変があればすぐに管理者へ報告し必要があれば速やかに医療受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを職員がいつでも確認できるようにしてあり、変更や追加があれば、記載、確認を行いその都度職員全体で把握するように努めている。また、利用者の状態を主治医に報告など連携に努めている。服薬の際、必ず職員が手渡し、必要であれば服薬介助を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の献立や日中の活動などにも工夫を行い、一人ひとりの排便状態の把握、記録を行っている。また、口頭で訴えられる利用者には、職員に直接伝えに来られる方もいる。必要に応じて主治医への相談も行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じた口腔ケアの声掛けや誘導を行い、見守りを行っている。夜間、義歯の方は義歯洗浄を使用し清潔を保っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じて食べやすく工夫をしたり、一日に必要な栄養素を取り入れ、献立の材料、摂取量を記録している。また、10時、15時にもお茶の時間を設け、十分な水分補給を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種の実施、小まめな嗽、室内を次亜塩素酸ソーダ液にて消毒を行うなど行い、感染を防ぐ。また、市や協議会等の主催する講習会にも参加し、職員の意識付けを行い、対策などを定期的に話し合い実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、調理器具や台所の消毒を行い、衛生管理を行っている。また、食品の取り扱いにも十分に注意し、新鮮な食材を提供し、使い回しをしない、安全な食事の提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの外に掲示板を設置し情報提供を行ったり、玄関先にはベンチを設置し利用者がいつでもくつろげるようにしている。また、プランターには季節の花が咲き、狭いスペースだが菜園に野菜を作り、収穫を楽しむことが出来るよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行い、音楽を流し一緒に唄を唄うなど楽しめる空間を作っている。フロアには必ず職員がいることで見守りを行い、度々声を掛け会話も楽しめる。また台所、食道、浴室やトイレなど、共用の空間は特に清潔を保ち匂いなどにも注意を払う工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは利用者が思い思いにソファやテーブルなどを利用し、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。また、度々職員が声掛けするなど会話を楽しんだり、趣味を行ったりと、一人でも仲間でもくつろげるような空間作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物品の配置、飾りつけなど、利用者が安心感のある暮らしが出来るよう配慮している。また、ご家族や利用者の意向に合わせた空間作りも行い、安全且つ、快適に過ごせるような工夫を行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じた温度調整や湿度調整を行っている。また、エアコンのリモコンは各居室、利用者に渡してあるが、小まめに職員が巡回し、温度を確かめている。匂いは常に換気を行い、小まめな掃除、消臭や除菌を行うように心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室浴槽などに手すりを設置。各自の身体の状態に合わせたベットの高さや種類、フロアの椅子には杖立てを設置するなど、利用者に合わせて工夫を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、各居室入り口にはネームプレートを使用している。また、利用者の状態に合わせて説明を行ったり、案内なども行う。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには、職員と利用者共同で作った花壇や菜園に季節の花や野菜など植え、手入れや収穫を楽しむことが出来る。また、ベンチを設置していることで、外の空気を浴び、くつろげるようにしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)